

播磨町歴史 NEWS

郷土資料館が昭和60(1985)年に開館して30周年を迎えます。そこで、まちの発展と文化財にまつわる秘話などを歴史ニュースとして紹介します。

▶ 問合せ 播磨町郷土資料館 ☎079(435)5000

古宮四カ寺で唯一残った良仙寺！

播磨町古宮に大永3(1523)年に創建された古宝山良仙寺があります。江戸時代には、良仙寺のほかに松元寺、海禅寺、願満寺の四カ寺がありました。明治の初めに松元寺が廃寺となり、本堂は同じ曹洞宗の良仙寺に移築(現「観音堂」)され、ご本尊の釈迦如来像も移されました。また、同じ宗派の海禅寺は、いつ廃寺になったのか不明ですが、阿弥陀如来像は良仙寺に移されています。二カ寺の檀家は良仙寺に入り、現在は130軒余りあります。

また、良仙寺には松元寺から六面石幢も移されています。これは、石燈籠と同じ形で、火袋にあたる部分が龕部と呼ばれる六角柱の形をしていて、その六面には形の違う地蔵菩薩が彫られています。もとは基礎、幢身、中台、龕部、笠、請花、宝珠からなる石幢であったと思われませんが、現在では龕部だけが残り、郷土資料館で保管しています。傷みがひどく建てられた年代は不明ですが、様式から見て室町時代のもと考えられます。

江戸時代には、浜街道(高砂道)を多くの旅人が行き来し、このあたりは美しい松林があちこちにあったようです。その

一端が、お寺の御詠歌に詠まれています。松元寺では「高き座の 松の千歳に 澄む月は…」、良仙寺では「高き名の 松のみどりの 一しほも…」と松が盛り込まれています。また、「古宮千軒 お寺が四カ寺 坊さん養う飯盛松」という歌が残っており、四カ寺の中でも、特に松元寺の飯盛松は有名で、多くの参拝客でにぎわっていたことを歌ったものです。古宮千軒の「千軒」は、家がたくさんあるという意味です。ジョセフ・ヒコ(浜田彦蔵)は、自叙伝の中で古宮村を400～500軒と書いています。ヒコは、古宮村で生まれ、すぐ隣の本庄村で育ったので、この合計数を書いたようです(「古宮村」と喜瀬川から東の「本庄村」の家を合わせると、これぐらいの軒数になります)。

江戸時代も終わりになると、寺子屋や私塾が多く開かれ、善福寺では習字が、良仙寺では習字と読書(国語)が教えられるようになりました。教えていたのは住職ですが、生徒は筆子と呼ばれ、机や文庫(本)などは筆子が用意していました。彦太郎(ジョセフ・ヒコの幼名)も、良仙寺で学んでいたと考えています。



◀ 再建前の良仙寺
(昭和51年12月撮影)
手前 本堂 奥 観音堂

町の人口 4月1日現在

住民基本台帳人口()は前月比

34,717人(-44人)

男…16,938人(-46人)

世帯数…14,447世帯(+20世帯)

女…17,779人(+2人)